

# INFORMATION

## ■ 症例検討会のご案内

北九州市立医療センターでは、地域の医療従事者の方々と一緒に医療技術向上のため、下記のとおり症例検討会を実施しています。

**\*今年度の開催につきましては未定です。開催が決定次第お知らせいたします\***

症例検討会名・開催日	時間・場所
<b>■ 乳腺テクニカルカンファレンス</b> 毎月 第2・4月曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
乳腺外科・放射線科・病理診断科の医師、放射線技師、臨床検査技師、スタッフで症例検討会を行っています。	
<b>■ 呼吸器カンファレンス</b> 毎週 火曜日開催	時間：17時～18時 場所：別館6階 講堂
呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
<b>■ 消化器カンファレンス</b> 隔月 第3木曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
消化器内科・消化器外科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
<b>■ 周産期症例検討会</b> 奇数月 第3水曜日開催	時間：19時～20時30分 場所：別館6階 講堂
産婦人科・小児科・小児外科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	

※日程は都合により変更・中止になる場合がございます。事前に医療連携室へご確認の上、ご参加いただければ幸いです。

検討ご希望の症例がございましたらぜひご参加ください。皆さまの多数のご参加をお待ちしております。

\*事前の申し込みは必要ありません。(医療連携室 TEL: 093-533-8660(直通))

## ■ 地域医療従事者研修会のご案内

**\*今年度の開催につきましては未定です。開催が決定次第お知らせいたします\***

【問い合わせ先】北九州市立医療センター 医療連携室 TEL.093-533-8660(直通)



# 輪



# 輪



北九州市立医療センターニュース「輪」  
 第78号 2020年8月25日発行

### <基本理念>

わたしたちは公共的使命を自覚し  
 心のこもった最高最良の医療を提供します

編集長：秋穂 裕唯

©2020 北九州市立医療センター /  
 本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為は  
 ご遠慮ください。

**編集後記** コロナ禍での長い梅雨が明け、8月になりました。東京オリンピックをはじめさまざまなイベントが中止延期となりましたが、プロスポーツ、コンサートなどが段階的に再開し始めました。感染者数は増え続けていますが、個々がコロナ対策をして社会経済活動を維持していかなければなりません。当院も委縮することなく最高水準の医療を提供していく所存です。今年度より精神科の新設、アビランスルーム、臨床研究推進室の開設により診療に厚みが増えました。放射線治療、総合周産期母子医療センターもさらに充実してまいりました。今後とも北九州市立医療センターをよろしくお願いいたします。(秋穂)

〒802-8561 北九州市小倉北区馬借2丁目1番1号 北九州市立医療センター  
 TEL.093-541-1831(代表) FAX.093-533-8693  
<https://www.kitakyu-cho.jp/center/>

### 広報委員会「輪」編集委員

秋穂裕唯 林 和子 重松宏尚 堀岡宏平 杉本優子 田中順子  
 五反康人 田中利佳 森永七瀬 田代真紀 原 泉 高木良輔



HP: QRコード



FB: QRコード



地方独立行政法人 北九州市立病院機構

北九州市立医療センター

## 「地域がん診療連携拠点病院(高度型)」の指定を受けました

地域がん診療連携拠点病院(高度型)とは、国が指定するがん診療拠点病院等で、診療機能等が高い医療機関として新たに設定された病院です。地域において充実した医療と連携体制の充実を担う中核病院としての当院のがん診療やがん相談支援の取組と実績が評価されました。

当院のがん診療は、最新のがん診療として前立腺、消化管などの低侵襲ロボット支援手術、内視鏡低侵襲手術、放射線治療に加え、緩和ケアセンター、がん看護外来、外来化学療法室の設置、認定看護師や専門薬剤師による診療のサポート体制が整っています。

また、がん相談支援センターでは専従の認定がん専門相談員や社会福祉士等が、がん患者さんやご家族、関わる専門職からさまざまな相談をお受けしています。

地域のがん診療に対し、医療機関や専門職との連携に注力し、貢献してまいります。

### ● 外来化学療法センター

当院では、年間10,000件を超す外来での抗がん剤治療を行っています。以前は、抗がん剤治療には長期の入院が必要でしたが、副作用を緩和する薬剤や新規抗がん剤の開発により、外来通院での治療が可能となりました。

また、抗がん剤を安心して快適に受けていただけるよう、専用の外来化学療法センターを2008年7月に開設いたしました。今後も主治医、専任の看護師、薬剤師とともにチーム医療を行い安全で効率の良い化学療法を実践し、地域の医療に貢献します。



### ● がん相談支援センター

がん相談支援センターは、全国のがん診療連携拠点病院に設置されたがんの相談窓口です。患者さんやご家族のほか、地域の方々はどうなっても無料でご利用いただけます。国立がん研究センターの研修を受けた相談員が配置されていますので安心して相談することが可能です。



### ● 緩和ケアセンター

2019年1月「緩和ケアセンター」を設置しました。緩和ケアセンターでは、緩和ケアセンター外来、がん看護外来、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟などを有機的に統合し、早期からの緩和ケア提供体制の促進、がん看護カウンセリングの実施、スクリーニングなどの院内緩和ケアに関わる情報の分析・評価を行い、院内での緩和ケア提供体制の管理運営を強化しています。



### ● がんゲノムセンター

当院は、がんゲノム医療中核拠点病院である九州大学病院と連携して「がんゲノム医療」を提供する「がんゲノム医療連携病院」として厚生労働省から指定されました。

## アピアランスケアルーム「りぼん」の紹介



乳がん看護認定看護師  
古賀 亜佐子

アピアランスとは「外見」を意味します。がん治療の副作用による外見の変化には、髪の毛の脱毛、まつげやまゆ毛の脱毛、手足や全身の皮膚症状、爪の変化、手術による形の変化などがあります。これらの変化の感じ方には個人差がありますが、心理・社会的側面が治療に多少の影響を与えています。近年がん治療は、外来通院治療ができるよう環境が整えられ、家庭や社会での生活を送りながら治療を行う患者さんが増えてきました。「周りの人からどう見られているかになる」「自分らしさがなくなったような気がする」など、患者さんの声も聞かれることが多くなりました。このような患者さんのニーズからも医療現場でも外見のサポートをすることの重要性が認識され始めました。

当院では2020年2月6日に北九州地域アピアランスケア推進協議会会員の4つの企業や団体とともにアピアランスケアルーム『おしゅれサロン・りぼん』を開室しました。ウィッグや爪のケア用品・乳がん手術後の下着やパッドの展示、ヘアケアやハンドケアに関する情報提供やウィッグの試着を行っています。また、がん看護外来の認定看護師が不安や悩みなど精神面のサポートを行っています。医療者と美容関係者が協働することで専門性の高いケアが提供できます。患者さんの気がかりに寄り添い、自分らしさを保ちながら日常生活と治療が両立できるようサポートさせていただきます。またアピアランスケアの啓蒙を行い、院内でのサポート体制づくりに努めていきたいと思っております。



アピアランスケアルーム

おしゅれサロン -アピアランスケアルーム-

# りぼん

● 脱毛時の頭皮ケア  
● 医療用ウィッグの選び方  
● 治療中のメイク、ネイル  
● 乳がん術後の下着の選び方相談

がん治療による  
ご悩み  
ありませんか?

開室日 **毎週 火・木曜日**  
予約の必要はありませんので、  
お気軽にご相談ください!

※ウィッグ、下着の  
試着相談も可能です!

〔ケア担当メーカーおよび美容室〕  
毎週火曜日：イマムラ  
第1木曜日：アデランス  
第2木曜日：アートネイチャー  
第3木曜日：スヴェンソン  
第4木曜日：チャーム

時間 **12:00～15:00**  
※受付は15:00～15:30は予約制ですご利用できません。

場所 **北九州市立医療センター  
本館 4階**

どなたでもご利用できます。

【問い合わせ窓口】 北九州市立医療センター1F がん相談支援センター (TEL: 093-541-1831)



がん看護分野の認定看護師

### CONTENTS

- 01 トピックス / 「地域がん診療連携拠点病院(高度型)」の指定を受けました
- 02 アピアランスケアルーム「りぼん」の紹介
- 03 医療連携について
- 04 院内紹介 / 精神科・産婦人科
- 05 スポットライト / 放射線治療部門の紹介
- 06 施設基準届出状況
- 07 トピックス / 北九州市立医療センターのコロナ対策
- 08 看護の広場 / 総合産産期母子医療センター
- 09 登録医のご紹介
- 10 医療連携室だより 臨床研究通信

### INFORMATION

症例検討会のご案内



### 〔表紙写真について〕

昨年9月よりElekta社製リニアク VersaHDが稼働し始めて、VMAT等の高精度放射線治療を行うことができるようになりました。放射線治療部のフロアもリニューアルして、癒しの空間となっておりますので、近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

# 医療連携

Medical collaboration



医療連携室長  
秋穂 裕唯 (副院長)

4月7日に発令した新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が5月25日に全面解除になりましたが、当地域には直ちに第2波が到来し予断を許さない状況です。

引き続き当院は第2種感染症指定医療機関として、感染を広げないように取り組んでまいります。

感染拡大防止と社会経済活動の両立を継続していかなければなりません。感染経路不明例が増え、この原稿を書いている7月時点では収束の兆しが見えていません。大変残念ではございますが、皆さまの健康面、安全面を第一に考え、本年度の「連携の会」は中止とさせていただきます。

当院の医療連携の現状について報告いたします。当院は2011年に地域医療支援病院に認定され、2016年から全診療科紹介制導入、2017年から全診療科時間予約制を導入しました。2019年度の紹介率は85.2%、逆紹介率は81.3%と前年度よりやや減少しましたが、紹介患者数は13,249名と前年度より735名増加しました。登録医機関数は584名、開放病床利用患者数は35名でした。画像診断の共同利用は1,274件とやや減少しました。救急車受け入れ件数は1,533件で前年度より113件増加しました。昨年より平日日勤時間帯の新患救急患者の受け入れを始めた影響と思われる。

医療相談室の相談件数は283件、がん相談支援センターの相談件数は2,960件でした。乳がん、肺がん、消化器がんなどのセカンドオピニオン実施件数は46件でした。

連携ネット北九州の加入施設は150施設と着実に増加しています。カルテ公開患者数は3,772人で前年度より1,176人増加しました。費用は掛かりませんので導入のご検討をよろしくお願いいたします。

全人類が経験したことがない夏になりましたが、段階的に各種イベントが再開されつつあります。今後も当院との連携にご理解、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。



## 院内紹介

Medical Department Information

### 精神科

Psychiatry



精神科  
吉田 侑司

4月より精神科に赴任しました吉田侑司と申します。これまで山口県で精神科医療に携わっていましたが、この度、ご縁に導かれて地元の北九州市で働かせていただくことになりました。

当院精神科の基本的な業務は入院患者を対象としたリエゾン精神医学です。認知症やせん妄を中心に統合失調症、気分障害、ストレス関連障害、不安障害、睡眠障害などの精神疾患を診察し、薬物療法や精神療法を行います。もし、精神疾患が疑われ対応に苦慮されている患者さんがおられた場合、当科にご相談ください。また、認知症ケアとして多職種と協働してチームを組み、認知症に伴う行動・心理症状に対する治療を行います。緩和ケアチームにも参加し、終末期の患者さんの穏やかな看取りを支えます。



スタッフは非常勤の大橋綾子先生と合わせて2人のみと小さい科ではありますが、今後、北九州市の医療に貢献すべく精進してまいります。なにとぞよろしくお願いいたします。

### 産婦人科

Obstetrics and gynecology



産婦人科  
西村 淳一

令和2年5月1日に北九州市立医療センターに赴任しました西村淳一と申します。以前は島根県の病院で勤務していました。北九州市での生活も勤務も初めてのことです。早く慣れるように頑張りたいと思います。

当院は総合周産期母子医療センター指定病院です。北九州市およびその近隣地域の母胎ハイリスク症例の診療に中心的役割を担い、搬送も受け入れています。

また、産婦人科のもう一つの分野でもある婦人科診療も地域の中核病院としての役割を担っています。良性疾患だけでなく悪性疾患も多数の症例を診療しガイドラインに則って治療を行っています。

近年、産婦人科では多くの症例で腹腔鏡下手術など低侵襲手術が行われるようになりました。悪性疾患でも施行されるようになり当院でも、適応を遵守し腹腔鏡下手術を施行しています。



今後も地域のの中核病院としてお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



# 放射線治療部門の紹介

放射線科  
野々下 豪



当院では年間500例程度の放射線治療を行っています。通常の放射線治療だけでなく高精度放射線治療である強度変調放射線治療、頭部・体幹部(肺)定位放射線治療、また小線源治療等も行っていきます。2019年度に放射線治療機器を更新しましたので、新たに始めた治療を中心に紹介します。



放射線治療受付



リニアック

## 画像誘導放射線治療(IGRT)

放射線治療装置に搭載されたCTを利用し治療直前の腫瘍の位置をCTによって確認する方法で高精度放射線治療に欠かせない技術です。

乳房など形状に特徴がある部位では光学式カメラシステムを用いた体表面での位置合わせを行っています(図1)。皮膚マーキングが必要最小限にできること、放射線被曝なく繰り返しの撮影が可能で治療中のモニタリングとしても利用することが可能です。

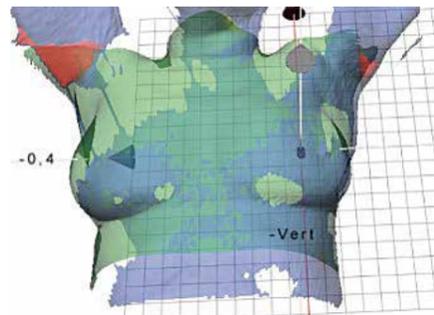


図1：体表面での位置合わせ画像

## 強度変調放射線治療(IMRT)

IMRTは病変に放射線を集中させて正常臓器をさけて行う治療で有害事象を抑えつつより良い治療効果が期待できる治療です。

以前より行っていましたが治療機器更新により回転しながらIMRTを行うVMATが可能となりました。以前と比較して放射線の集中度が高まり、より有害事象が少なくなります。(図2)また治療時間が短くなり治療中の負担も軽くなります。

前立腺癌では泌尿器科の協力のもと直腸の有害事象軽減のための処置を導入しています。直腸と前立腺の間にhydrogelを挿入し直腸への放射線被曝を軽減する処置となります。

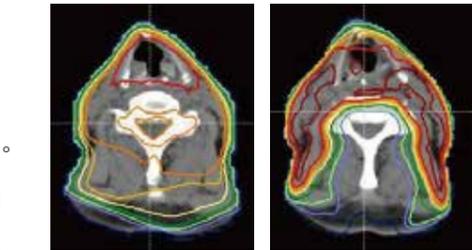
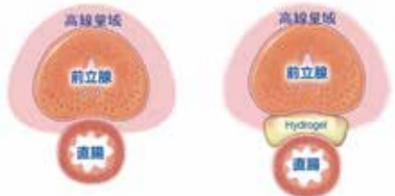


図2a：通常照射

図2b：IMRT

図3：Hydrogel挿入前、挿入後

北九州市立医療センターでは、がん診療連携拠点病院として放射線治療に力を入れて取り組んでおり、今後も高精度放射線治療の適応拡大を検討しています。放射線治療に関してご不明の点などありましたらご相談ください。今後ともよろしくお願いたします。

# 施設基準届出状況

分類	名称	分類	名称
基本	一般病棟入院基本料(急性期一般1)	特掲	CT撮影及びMRI撮影
基本	臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	特掲	冠動脈CT撮影加算
基本	救急医療管理加算	特掲	大腸CT撮影加算
基本	超急性期脳卒中加算	特掲	心臓MRI撮影加算
基本	妊産婦緊急搬送入院加算	特掲	乳房MRI撮影加算
基本	診療録管理体制加算1	特掲	全身MRI撮影加算
基本	医師事務作業補助体制加算2(25対1)	特掲	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
基本	急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者5割以上)	特掲	外来化学療法加算1
基本	看護職員夜間配置加算(看護職員夜間12対1配置加算1)	特掲	連携充実加算
基本	重症者等療養環境特別加算	特掲	無菌製剤処理料
基本	無菌治療室管理加算1	特掲	心大血管疾患リハビリテーション料(I)
基本	無菌治療室管理加算2	特掲	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
基本	緩和ケア診療加算	特掲	運動器リハビリテーション料(I)
基本	がん拠点病院加算	特掲	呼吸器リハビリテーション料(I)
基本	栄養サポートチーム加算	特掲	がん患者リハビリテーション料
基本	医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算1)	特掲	リンパ浮腫複合的治療料
基本	感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算・抗菌薬適正使用支援加算)	特掲	認知療法・認知行動療法
基本	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	特掲	一酸化窒素吸入療法
基本	ハイリスク妊娠管理加算	特掲	組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
基本	ハイリスク分娩管理加算	特掲	後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
基本	呼吸ケアチーム加算	特掲	椎間板内酵素注入療法
基本	後発医薬品使用体制加算1	特掲	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)
基本	病棟薬剤業務実施加算1	特掲	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
基本	データ提出加算2	特掲	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
基本	入院支援加算(1)(入院時支援加算・総合機能評価加算)	特掲	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
基本	認知症ケア加算1	特掲	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
基本	せん妄ハイリスク患者ケア加算	特掲	経皮的冠動脈形成術
基本	精神疾患診療体制加算2	特掲	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
基本	ハイケアユニット入院医療管理料1	特掲	経皮的冠動脈ステント留置術
基本	総合周産期特定集中治療室管理料(1、2)	特掲	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
基本	新生児治療回復室入院医療管理料	特掲	植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計挿出術
基本	小児入院医療管理料4	特掲	大動脈バルーンポンピング法(ABP法)
基本	緩和ケア病棟入院料1	特掲	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
基本	入院時食事療養(I)・入院時生活療養(I)	特掲	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
特掲	外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	特掲	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
特掲	植込型除細動器移行期加算	特掲	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
特掲	心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	特掲	腹腔鏡下肝切除術
特掲	がん性疼痛緩和指導管理料	特掲	腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
特掲	がん患者指導管理料イ	特掲	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
特掲	がん患者指導管理料ロ	特掲	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
特掲	がん患者指導管理料ハ	特掲	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
特掲	がん患者指導管理料ニ	特掲	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
特掲	外来緩和ケア管理料	特掲	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
特掲	移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	特掲	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
特掲	乳腺炎重症化予防ケア・指導料	特掲	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
特掲	夜間休日救急搬送医学管理料	特掲	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
特掲	夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算1	特掲	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
特掲	外来リハビリテーション診療料	特掲	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
特掲	外来放射線照射診療料	特掲	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
特掲	療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	特掲	胎児輸血術
特掲	開放型病院共同指導料	特掲	医科点数表第2章第10部手術の通則の19gに規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
特掲	がん治療連携計画策定料	特掲	輸血管理料I
特掲	がん治療連携管理料	特掲	輸血適正使用加算
特掲	肝炎インターフェロン治療計画料	特掲	自己生体組織接着剤作成術
特掲	薬剤管理指導料	特掲	自己クリオプリシテート作製術(用手法)
特掲	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	特掲	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
特掲	医療機器安全管理料1	特掲	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
特掲	医療機器安全管理料2	特掲	麻酔管理料(I)
特掲	在宅療養後方支援病院	特掲	麻酔管理料(II)
特掲	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	特掲	放射線治療専任加算
特掲	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	特掲	放射線治療加算
特掲	遺伝学的検査	特掲	高エネルギー放射線治療
特掲	骨髄微小残存病変測定	特掲	1回線量増加加算
特掲	BRCA1 / 2遺伝子検査	特掲	強度変調放射線治療(IMRT)
特掲	がんゲノムプロファイリング検査	特掲	画像誘導放射線治療(IGRT)
特掲	造血器腫瘍遺伝子検査	特掲	体外照射呼吸性移動対策加算
特掲	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	特掲	定位放射線治療
特掲	検体検査管理加算(I)	特掲	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
特掲	検体検査管理加算(IV)	特掲	画像誘導密封小線源治療加算
特掲	遺伝カウンセリング加算	特掲	病理診断管理加算2
特掲	遺伝性腫瘍カウンセリング加算	特掲	悪性腫瘍病理組織標本加算
特掲	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	特掲	クラウン・ブリッジ維持管理料
特掲	植込型心電図検査	特掲	酸素単価
特掲	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	特掲	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
特掲	胎児心エコー法		
特掲	長期継続頭蓋内脳波検査		
特掲	神経学的検査		
特掲	小児食物アレルギー負荷検査		
特掲	CT透視下気管支鏡検査加算		
特掲	画像診断管理加算2		

# 北九州市立医療センターのコロナ対策

第二種感染症指定医療機関に指定されている当院の感染症対策の一例を紹介します。

## 01 標準的な個人防護具(以下PPE)の強化

新型コロナウイルスは無症候性の感染者が感染拡大に関与しています。またインフルエンザとは異なり、発症直前～2日前までのウイルス排出量が多く、感染力が高いことがわかっております。

症状の有無に関わらず、どこで陽性患者さんが発生しても濃厚接触とならないよう、処置別に基準を設け、十分なPPEを着用して診療行為にあたっております。

表のように外来で発熱がある患者さんの対応で着用するPPEの基準を設け対応しております。

### ■発熱外来 処置別PPE

原則：患者さんには必ずマスクを着用してもらう(持っていない場合患者用マスクを渡す)

ケア内容	・会話 ・説明	・診察(介助含) ・採血・VS測定 ・血管確保 ・CT撮影※1 ・心電図※1 ・環境整備	・おむつ交換 ・リネン交換 ・抱っこ ・体位交換 ・ポータブルXP ・エコー検査	・ドレーン排液 ・尿廃棄 ・褥瘡洗浄 ・陰部洗浄 ・穿針処置※2	・吐物処理 ・広範囲な創洗浄 ・口腔、気管吸引 ・救急車対応※2
ゴーグル アイガード	○	○	○	○	○
サージカル マスク	○	○	○	○	救急車対応・吸引時N95
ガウン			○	○	
エプロン		○			
手袋		○	○	○	○

※1：ADL低い患者の生理検査・放射線検査は体位変換と同等としガウン着用。事前に各課に「ガウン対応」と連絡する  
※2：体液汚染する処置を実施した場合、マスクやアイガードは再利用せず廃棄する

## 02 術前検査

曝露リスクのある手術を行う患者さんすべてに入院時PCR検査を行っています。手術は患者さんへの侵襲も大きく、医療従事者への感染リスクも高い処置です。より安全を確保し、安心して手術を受けていただくため、当院では手術を受けられる患者さんすべてに新型コロナウイルスのPCR検査、緊急時は抗原検査で陰性を確認しております。



## 04 大学病院・地域病院との連携

重症化が予想される患者さんや、処置が必要な患者さんは地域の病院と連携して受け入れを行っています。また、大学病院と連携して、必要時は上位搬送を行っています。他院との連携を図り患者さんにとって最適な医療の提供を行っています。



## 05 PPE脱着訓練等

新型コロナウイルスは院内で特定の病棟で管理しており、完全に一般患者のエリアとは分けられた場所で入院病床を確保しております。職員が感染しない、また他の患者さんに感染拡大しないよう、個人防護具の着用訓練等実施しております。

三密を避けるため全職員に小規模での訓練や動画での配信等で院内学習を行っています。



## 03 産科入院患者検査・リモート面会

総合周産期母子医療センターではリモート面会サービスを導入しております。

お産時にご家族の方とスマートフォンのアプリケーションを利用し、ビデオ通話にて立ち会っていただけます。

### お伝えしたいこと

新型コロナウイルスは完全に終息は難しく、数年単位での対応を考えていなければなりません。また、院内感染は感染症指定医療機関だけでなく、市中のすべての医療機関で発生する可能性があります。院内感染や施設内感染を起こさないために、今一度、施設の標準的な感染対策を見直し、職員や患者さんがwithコロナの時代に安心して過ごせる病院づくりを行っていききたいと思います。

## 総合周産期母子医療センター

# 母子に寄り添う切れ目ない看護を目指して



MFICU病棟看護部長 徳永 容子

総合周産期母子医療センターは、2001年12月に発足し19年目となります。現在34名の助産師が勤務しており、そのうち日本助産機構認定のアドバンス助産師が20名おります。8階南病棟(一般病床)33床、MFICU病棟6床において地域の医療機関よりハイリスク妊産褥婦をご紹介いただき、産婦人科や新生児科の先生方とともに産婦人科外来助産師、NICU看護師、小児科看護師、手術室部門と連携して妊産褥婦や新生児への看護とご家族への支援を行っています。

今年度よりローリスク分娩も受け入れるようになりましたが、入院する方ほとんどはハイリスクです。緊急性の高いものから長期入院となる疾患までさまざまです。病棟助産師は、突然入院となった妊産褥婦の緊張と不安な気持ちに寄り添い安心して入院生活が送れるように、長期入院となった精神的ストレスへの心と体のケアを行います。分娩後は、乳房ケアや授乳・育児指導を通して褥婦が妊娠や分娩を振り返りながら「生まれてきてくれてありがとう」と前向きに育児ができるように、エジンバラ産後うつ質問票や赤ちゃんへの気持ち質問票を活用して看護を行っています。なかでも妊娠期からの支援が必要とされる特定妊婦(若年、望まない妊娠、経済的問題、妊婦健康診査未受診、妊婦の心身の不調等)は、子ども虐待のリスクが高いため産婦人科外来助産師が、妊娠中より地域の保健師との連携を始めています。分娩後早期に地域の保健師

へ褥婦の分娩・産褥の様子や新生児との様子について連絡し、退院後に継続看護連絡カードを送付して地域での看護をお願いしています。現在はCOVID-19で来院できませんが、必要であれば保健師やケースワーカーに病院訪問をしていただき、褥婦とご家族、当院の医療社会福祉士、退院支援看護師、病棟助産師と面談を行い退院に向けて協力いただいております。新生児がNICUに入院された場合は、NICUとの合同退院支援カンファレンスも行っています。

今年度は特にCOVID-19の感染拡大防止のため面会や分娩の立ち合いができなくなり妊産褥婦さんが、寂しい思いをされています。そこで、スタッフから「安心して産みに来てください」と心よりお待ちしているメッセージ動画を作成し外来で妊婦さんに見ていただいています。さらに、褥婦さんからいただいた「声」をきっかけに総合周産期母子医療センター長の発案でリモート分娩立ち合い面会を始めました。感染病棟での分娩など今できることを助産師が一丸となって行っています。

今後は、さらに母子を切れ目なく支援できるように産後ケア事業や産後二週間健診をはじめ、母乳外来の充実を目指して精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



8南病棟スタッフ一同

# Registered physician Information



登録医のご紹介

Clinic  
1

## わかまつクリニック

### INFORMATION

所在地：小倉北区浅野2丁目14-1 KMMビル2階  
TEL：093-512-8760 院長：若松 信一  
FAX：093-512-8762 診療科目：腫瘍内科・内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:30~12:30	○	×	○	○	○	○	×
14:00~19:00	×	×	○	○	○	○	×

※月曜日午後と火曜日は北九州市立医療センターに非常勤として勤務しています。



院長  
若松 信一



### アピールポイント

あまり例を見ない形態のクリニックですが今まで大変お世話になった外来化学療法センターをそのままクリニックに移したイメージです。働きながらでも抗がん薬治療が負担にならないよう土曜日を含めて19時まで診察しています。少人数ではありますが優秀な看護師、スタッフをはじめ、治療前の採血検査も約15分と待ち時間も短くリラックスできる雰囲気での治療ができるよう心掛けています。医療センターで育てていただいた名誉を汚すことなく地域のがん医療に少しでも貢献できるようにスタッフ一同頑張っています。脱毛予防のため頭皮冷却装置「PAXMAN」も導入いたしました。お気軽にご相談ください。

### 市立医療センターへの一言

高度型がん診療連携拠点病院である医療センターと地域連携を図ることで開放病床利用や緊急緩和ケア病床利用などが治療には欠かすことのできない医療資源を提供していただいています。クリニックでも医療センターの治療歴、検査歴、画像などを参照できたり、CT、MRIなどの高度医療機器の予約が簡単にできる医療連携ネットも大変お世話になっております。担当がん患者さんのかかりつけ医の役割も担っていきたくと思います。これからも密な連携をお願いします。

Clinic  
2

## 医療法人正仁会 井町産婦人科医院

### INFORMATION

所在地：山口県下関市秋根南町2丁目1-18 院長：井町 正士  
TEL：083-263-3070 診療科目：産婦人科  
FAX：083-263-3071

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	○	○	○	○	○	○	×
15:00~18:00	○	○	×	○	○	×	×

※面会時間は9:00~20:00まで



院長  
井町 正士



### アピールポイント

産婦人科専門医として、婦人科では一般婦人科診療・子宮癌検診・不妊治療・避妊相談・更年期治療など、産科では妊婦健診・分娩・帝王切開などを行っています。また細胞診専門医として、子宮頸部上皮内腫瘍(異形成・0期癌)のレーザー治療を行っています。

### 市立医療センターへの一言

がん診療連携拠点病院として、婦人科癌の治療でお世話になっております。産科では、総合周産期母子医療センターに助けをいただいております。とくに医師同乗のドクターカーで迎えに来ていただけることがありがたいです。これからもよろしくお願いたします。

# 医療連携室だより

医療連携を基本に業務内容の充実を図り、地域医療機関、患者さん、職員からも安心して頼りにされるよう取り組んでまいります。

平素より、当院の地域医療連携につきましては、ご理解ご協力をいただき心からお礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症対策として救急搬送受入および診療制限にご理解いただき誠にありがとうございます。

医療連携室では、地域包括を強化し、地域の先生方からのご紹介の受付や緊急の診察依頼、入院ベッドの調整などスムーズな受入体制の充実に取り組んでまいります。

「連携ネット北九州」も現在150施設の医療機関に導入いただき順調に拡大しております。前方連携だけでなく、後方連携の施設への導入も始まっており、ご好評をいただいております。「連携ネット北九州」に関してのご質問などございましたら医療連携室までご連絡ください。

平常の診療に戻りましたら、さらに地域との連携を大切にし、地域医療支援病院としての機能を果たしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

地域医療連携推進担当係長 田代 真紀



地域医療連携推進担当部長  
ながせ くにとし  
長瀬 国利



地域医療連携推進担当主査  
たなか しげひと  
田中 重仁



地域医療連携推進(事務)  
くらか ひでゆき  
倉岡 秀幸

### 【医療連携室】

TEL 093-533-8660(直通) FAX 093-533-8718 E-mail: byou-iryuu-renkei@kitakyu-cho.jp ※患者さんのご紹介は、E-mailでは受付けておりません。

## RINKEN FOCUS | 臨床研究通信

# 臨床研究推進室を開設しました



北九州市立病院機構 理事長  
中西 洋一

昨今の医学の発展は目を見張るものがあります。つい最近まで夢だったことが次々に実現しています。今では、ウイルス肝炎が治り、がんゲノム医療が実用化され、ロボット手術が保険診療の下に実施されています。コロナ感染症で世界が大変なことになっていますが、実はCOVID-19の診断もごく最近可能になったもので、20世紀には想像もできなかったことです。診断できるからこそ、予防や治療が可能となり、医療崩壊を防ぐことができます。これらの新規医療技術を実用化するには臨床研究が絶対に必要です。

そして、現代医療においては、臨床研究の実施体制と実績が病院の実力のバロメーターになっています。北九州市立病院機構では、最高水準の医療を提供することに加え、現代医療が果たせない明日の医療の開発を目指して「臨床研究推進室」を設置しました。その第一歩として、コロナ感染症に対する治験・臨床試験・臨床研究を開始しました。皆様のご理解とご支援をお願いします。

